

(別紙2)

審査の結果の要旨

氏名 張 秀智

本論文は、夫婦関係という特定の対人関係における心理的自立に関する社会心理学的研究である。近年の日本人の夫婦関係の変化がもたらした社会的なインパクトは広く議論されているが、既存の研究には「夫婦関係」というユニットに絞ったものが多く、「独立した個人」という視点からのものは不十分なままにとどまっている。本論文はこの点に焦点を当て、夫婦という相互依存性の高い関係の中での「個」と「関係性」とを同時に両立可能とするような心理的自立に関し、主として女性を対象に実証研究を行ったものである。このことによって、本論文は社会的な問題に対して実証的に根拠の確かな改善策を行う基本的知見を提供すると同時に、社会心理学の研究領域で個の自立と関係性をめぐる諸要因の構造を明らかにしている。

論文の第1部においては、日本の夫婦関係を巡る社会的背景を検討しながら、既存の研究を概観し、本研究の焦点を定める議論が展開されている。第2部は「夫婦関係における心理的自立」概念を巡り、インデプス・インタビューに基づいた概念的な組み立てを行いつつ、さらにそれを社会調査可能な尺度に構成する作業が行われている。心理的自立の2つの下位概念としての「(本人の)主体性」と「配偶者の主体性尊重」の概念が提示され、さらにそれら尺度の実証的な妥当性の検討が行われている。続く第3部ではこうして構成された尺度を用いつつ、心理的自立が女性個人と夫婦関係にもたらす帰結が複数のサンプリング調査の結果をふまえて分析されていく。夫婦関係相互作用に含まれる対等性、葛藤解決時のコミュニケーションスタイル、配偶者へのソーシャル・サポートの効果、夫婦関係に対する主観的効力感の効果、が次々に検討される。ここでは妻に対する調査データのみならず、夫からの回答も含めたダイアドデータの分析も交え、女性の夫婦関係ウェル・ビーイングに対する夫の心理的自立の効果も明らかにされる。第4部では夫婦関係における心理的自立を規定する要因が検討されている。個人特性的要因、経済的要因、社会关系的要因に整理された中で、妻の就労やネットワークサイズの効果が見られるのみならず、夫の側での主体性や妻に対する主体性尊重の効果が明瞭に析出された。第5部は総合考察に当てられ、夫婦関係における心理的自立のモデルと実証的知見がまとめて示され、従来の研究との対応を示しつつ、本研究の意義が強調される。

以上、本研究は、理念的課題ないし規範的な課題に対し、実証的なアプローチで挑み、どのような自立の形がそうした課題の解決につながるのかを示し得た点で、この分野の研究に高い貢献を果たすと考えられる。もし問題があるとするならば、男性に焦点を当てた場合に、この研究のアプローチはどのような全体像を描きうるのか、十分には果たし得ていない点であろう。これは今後の課題としておきたい。以上によって著者が研究者として十分な能力を有することが示されているので、本審査委員会は博士(社会心理学)の学位を授与するに値するものと判断する。

(別紙3)

試験の結果の要旨

氏名 張 秀智

試験においては、本論文を中心として質疑応答を重ね、学力検定を行って、論文について判定されたものと等しい学力があると評価することができた。

以上述べた審査の結果を総合して、博士（社会心理学）の学位を授与するに値するものと認める。